

資源循環経済の成長に向けたアパレル産業の取り組み事例

2024年3月11日

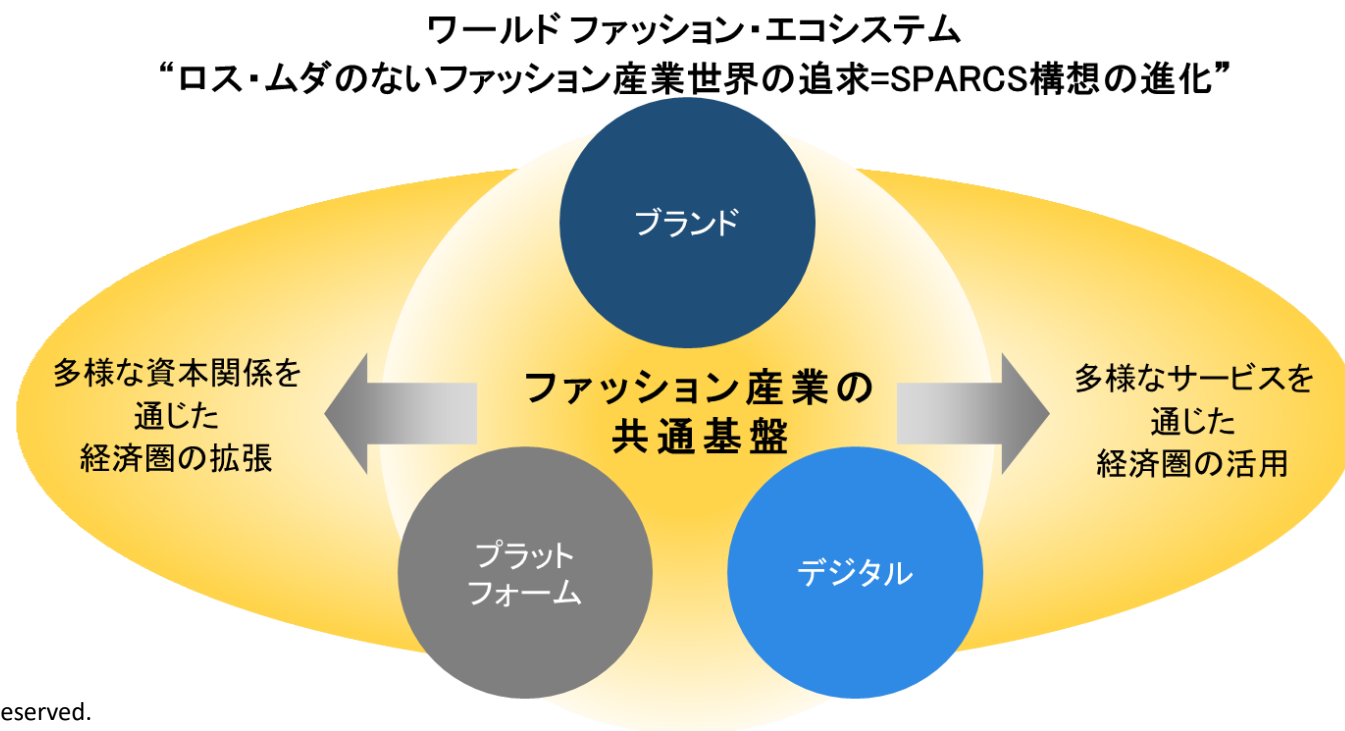
一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会
(株式会社ワールド)

JAFIC  WORLD

【基本方針】

『価値創造企業グループ』として長期的・持続的に価値を創造し、提供し続けるためには「持続可能な社会の実現」への貢献が不可欠であり、環境負荷の低減及び社会活動の促進に関する取り組みを企業経営における重要課題のひとつと位置づけております。

そして、分散構造故に見える化が進んでいないファッション業界において、環境負荷の見える化を進めるとともに、「ワールド・ファッション・エコシステム」を通じてファッション産業の多様性と持続性の両立を目指し、産業全体の構造的課題の解消に向けて積極的に取り組んでおります。



「ワールド・ファッション・エコシステム」の構築を一段と高次元なものに昇華させることで、新たな成長機会の創出や社会が共感できる価値の創造をすべく、サステナビリティ社会に向けた戦略指針を具体化。脱炭素社会の実現に向けて当社グループ独自の「ワールド・サステナビリティ・プラン」を公表し、目標達成に向けた各施策を推進しております。本日は、赤枠の内容についてお話しします。

中期目標

Scope 3

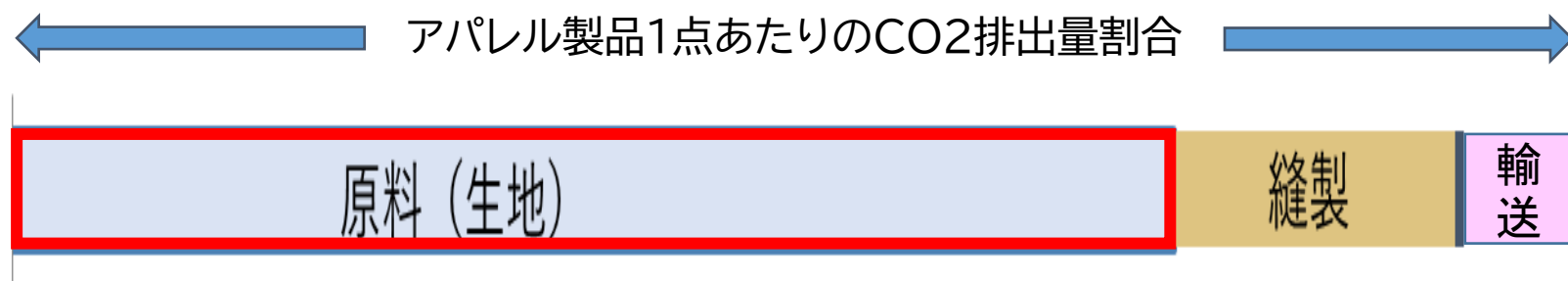
CO ₂	自社負荷：30年までに50%削減（18/3比） 間接負荷：30年までに1点（原単位）当り20%削減	取引先様との協業
水等環境	水等の環境負荷を5年以内に見える化し、目標策定	
人権尊重	27年までにモニタリングの仕組み確立	
商品廃棄	25年までに残在庫廃棄を“ゼロ”化	
事業所廃棄	30年までに50%削減	
サーキュラー事業	27年までに、国内随一のサーキュラー事業による貢献利益割合を10%化	
引取り点数	30年までに1,000万点/年の回収・活用	

環境／人権に関するガイドラインを定め、5年で100%の浸透を図る



【CO2削減】

アパレル事業においては、「2030年までに製品1点あたりのCO2排出量を20%削減する」という目標を設定しており、排出量の多くを占める原料(生地)の調達においては、サステイナブルな素材に切り替えることを推進しています。



サステイナブルな素材に切り替え、排出量を削減



【CO2削減】

2022年の「環境省 令和4年度サプライチェーンの脱炭素化推進モデル事業」の当社の取り組みのひとつとして、サプライヤーと共にGHG(温室効果ガス)削減に向けたサステナブル素材の共同開発を行い、従来の素材と比較をしたGHG排出量の削減率を明確にしました。
同素材の使用を含む環境負荷を考慮した素材は、2023年秋冬から「CIRCRIC(サーキュリック)」という素材ブランドとして販売しております。

「再生ウール」 GHG を 33.7%削減 ※	「再生ポリエステル×オーガニックコットン」 GHG を 23.4%削減 ※
※ウール原料（紡績、織布、加工）の製造工程における対バージン比の GHG 削減率	※ポリエステル、コットン原料（紡績、織布、加工）の製造工程における対バージン比の GHG 削減率
共同開発企業：中伝毛織株式会社（愛知県一宮市）	共同開発企業：豊島株式会社（愛知県名古屋市）
紡績段階での落ち綿とウール混率90%以上のニット商品、ウールの裁断端材等からアップサイクルした「再生ウール」をベースにコート、ジャケット、ボトム用の素材を開発。資源を再利用することで羊の飼育にかかわる GHG 排出を削減した。	ペットボトルから再生した「リサイクルポリステル」とトレーサビリティ可能な「オーガニックコットン」を混紡した汎用性の高いシャツ素材を開発。どちらもバージン原料（従来の製造方法による原料）と比較して大幅な GHG 排出量削減を実現。

未来のための服づくり

創業から60年、私たちはつねに前をみて服を作り続けてきました。そして今、服の未来を考えたときにひとや動物、そして地球への負担を最小限にした素材が必要だと考えました。

ワールドグループの商品は人と地球、みんなにやさしい未来を考えた素材を使います。持続可能な未来への一步目を新たな気持ちで踏み出します。

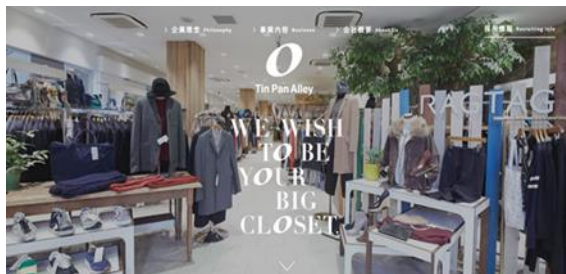


【サーキュラー事業】

当社グループは、リユース事業、シェアリング事業、オフプライス事業など数々のサーキュラー事業を展開しており、今後、グループ利益の10%までに拡大していく予定です。

Tin Pan Alley

- リユース事業
- 良いものを使い続ける
社会づくりへ貢献



Lexus

- シェアリング事業
- そこにあるモノとニーズ
をマッチング

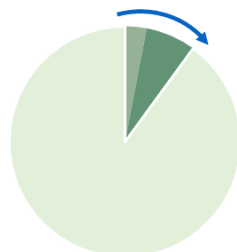


&Bridge

- オフプライス事業
- 1.5次流通として業界の廃
棄削減に貢献



サーキュラー事業



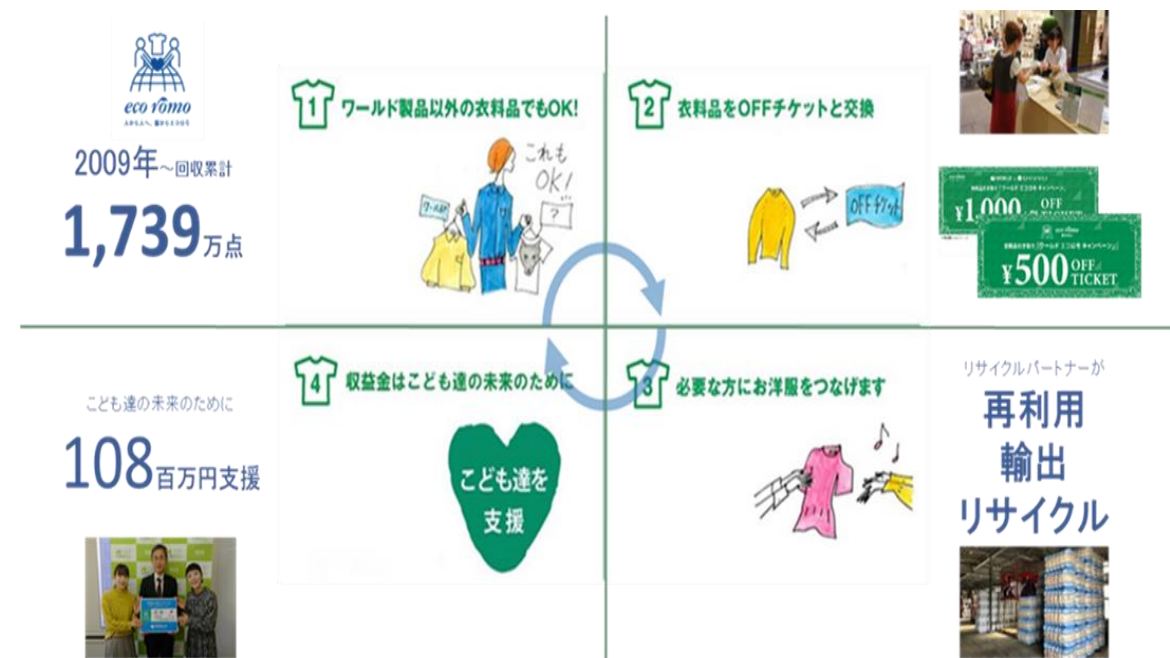
【衣料品引き取り】

リユースとリサイクルを通して「衣料品の価値を最後まで無駄なく活かすこと」を目的に社会貢献活動の一環として継続している衣料品引き取り「エコロモキャンペーン」を2009年から実施しております。

お客様が不要になった衣料品を百貨店やショッピングセンターなどの当社店舗で引き取り、オフチケットをお渡ししてお買い物を楽しんで頂きます。

当社の商品に限らず、他社の商品も含めて年間100万枚、これまで累計で1,794万枚をお引き取りしており、大切な洋服を次の役割へとつなぐ架け橋になっています。

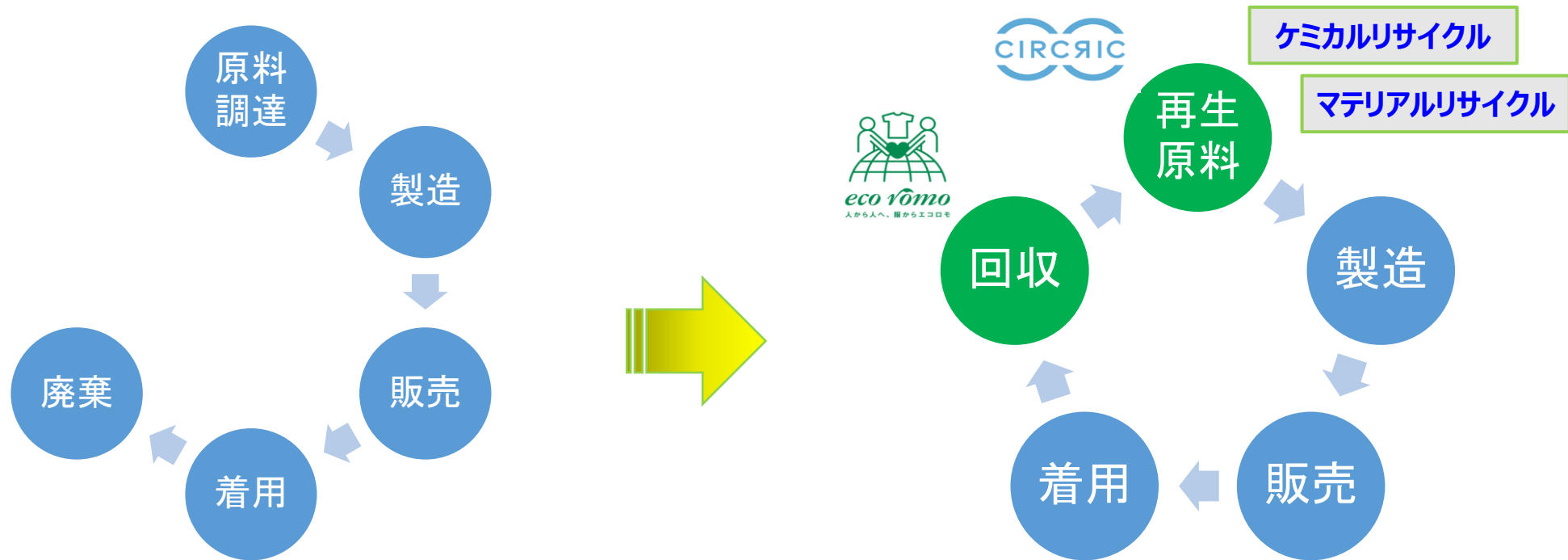
お引き取りした衣料品等はリサイクルパートナーへ販売し、二次流通として再利用を行い、収益金は日本赤十字社やユニセフなど複数の団体を通して、支援を必要としている「こども達の未来」のために役立てていただけるよう、寄付を行っています。
本年度は能登半島地震の復興に向けた寄付も予定しています。



「エコロモ」: “エコロジー”と“コロモ”を
かけ合わせた当社の造語

【WORLD CLOSED LOOP (サプライチェーン構想)】

現状のように「衣料品を作って販売し、お客様が着用した後に廃棄する」というプロセスの繰り返しでは、限りある資源の有効活用や、原料(生地)が出来るまでのGHG排出量の削減が出来ません。衣料品を廃棄することなく、資源として再生させ、またお客様に着用頂くというサイクル=CLOSED LOOPに向けて原料調達、製造から回収までのサプライチェーンの再構築を進めていきます。



【CLOSED LOOPの構築に向けての課題と要望】

【課題】

- 1、衣料品回収ルート of 拡大
自社で出来ることは進めるものの回収チャネルには
限界あり
- 2、再生原料の開発に必要な技術革新や人材不足

【要望】

- 1、地方自治体との協業の仕組み構築支援
- 2-①、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルな
どの技術を有する異業種とのマッチングや
ビジネスモデル構築支援
- 2-②、開発に関する助成金やインセンティブの付与
- 2-③、回収衣料の仕分け(ポリエステルなど再生可
能な素材の混率確認)に伴う人材確保や人件費の助
成(高齢者の雇用創出含む)

【CLOSED LOOPの構築に向けての課題と要望】

【課題】

3、海外を巻き込んだ資源循環経済の成長

【要望】

3、着用後の衣料の輸入禁止国への働きかけ

クローズドループのサプライチェーン構築に向け、国内で「紡績投入準備」(廃棄対象衣料品の回収⇒仕分け⇒裁断⇒圧縮梱包⇒出荷)～「再生紡績」までのトライアルを進めているが、「紡績投入準備」に掛かるコストが非常に高く、価格的にはミドルアッパーブランドに限定されてしまう為、価格の安いミドルローブランド向けには海外でのサプライチェーンの構築を進めたい。

今後の南アジア生産拠点として当社が着目しているバングラデシュにおいては、マテリアルリサイクルのサプライチェーンが既に確立されているものの、リサイクル原料用の他国からの衣料品の輸入は禁止されている。

その為、廃棄衣料品を回収し、日本で紡績投入準備まで行い、原料としてタイへ輸出(タイは原料としての輸入は認められている)し、再生紡績を行い、出来上がった生地をバングラデシュに輸出して縫製している為、難雑で効率が悪いオペレーションとなっている。

国内で発生する廃棄衣料品のままバングラデシュに輸出し、紡績投入準備～再生紡績～縫製までの一貫生産が実現できればCLOSED LOOPの早期実現につながると考える。